

高度な婦人科がん手術を行っていない 病院における子宮体癌治療の実際

—子宮体癌57例の後方視的検討—

深谷赤十字病院

松本直樹

長田まり絵

深谷普子

鈴木永純

松本智恵子

高橋幸男

背景

- ◆ 子宮体癌の基本術式は内性器全摘であるが、(準)広汎子宮全摘やリンパ節郭清の治療的意義も認められつつある
- ◆ 術前評価に基づき術式を選択する施設もあるが、当院では広汎子宮全摘やリンパ節郭清は行っていない
- ◆ がん専門病院へ紹介することもあるが、合併症や緊急性などの理由で紹介できない場合も多い
- ◆ 現在、術後補助化学療法としては、輸液管理の容易なTC療法 (Paclitaxel + Carboplatin) を第一選択としている

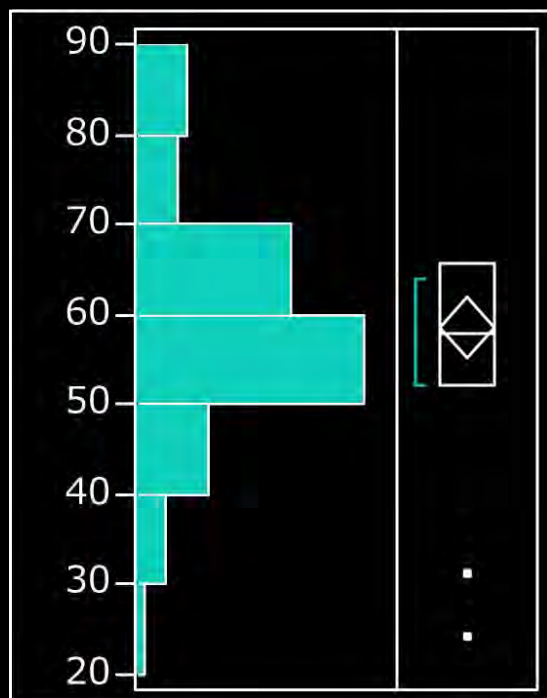
方法

- 研究手法： 後方視的コホート研究
- 対象： 過去12年間(2000年1月～2011年9月)に
主たる管理・治療を当院で行った子宮体癌 57 例
(子宮肉腫 (leiomyosarcoma, ESS) 5例 は除外した)
- 情報源： 当院の婦人科悪性腫瘍データベースおよび診療録(紙媒体)
- 因子： 手術進行期分類(日産婦1995, FIGO1988)
既知の病理組織学的リスク因子
その他
- 転帰： 再発, 死亡(主癌による)
- 統計手法： Kaplan-Meier法, Log rank検定, Cox proportional hazards model
(有意水準 $p < 0.05$)

結果

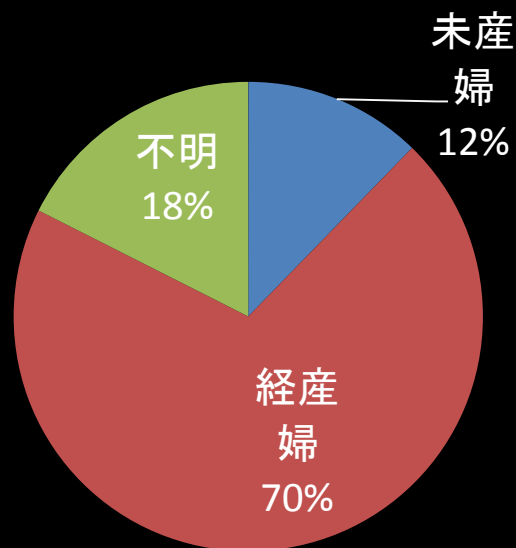
症例のプロフィール

診断時の年齢

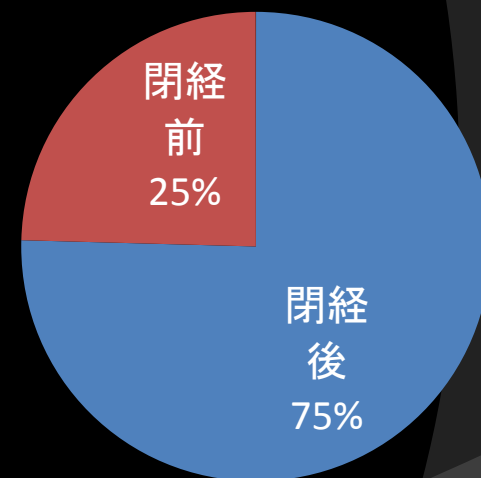


平均 58.5 歳

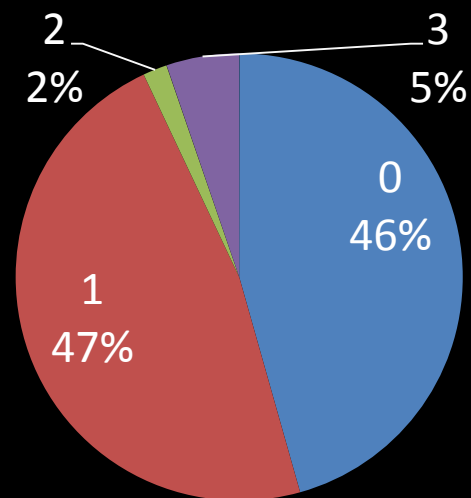
分娩歴



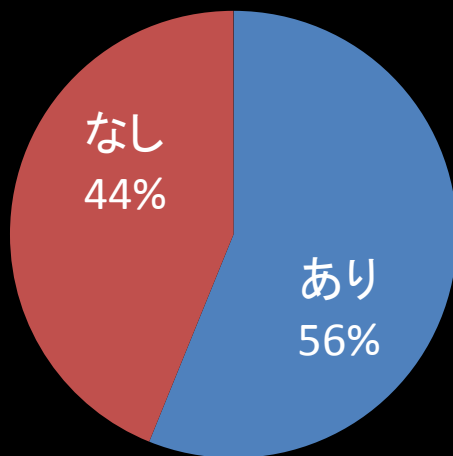
閉経



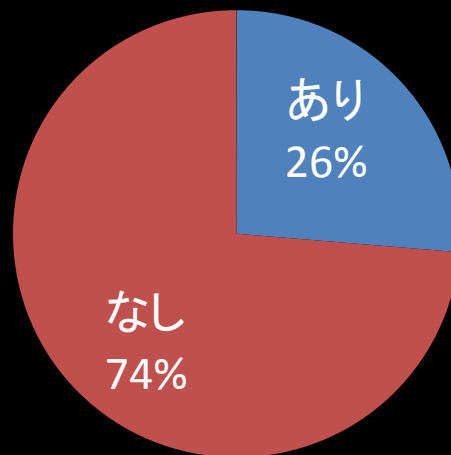
Performance status



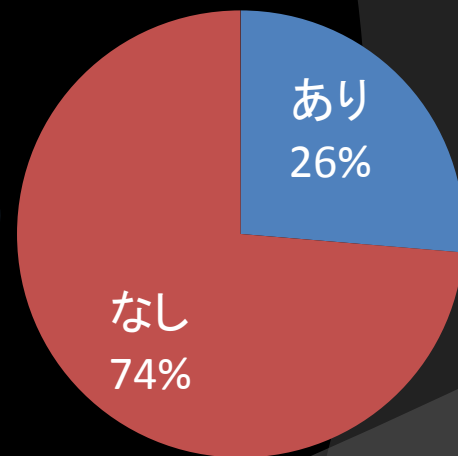
合併症 (全体)



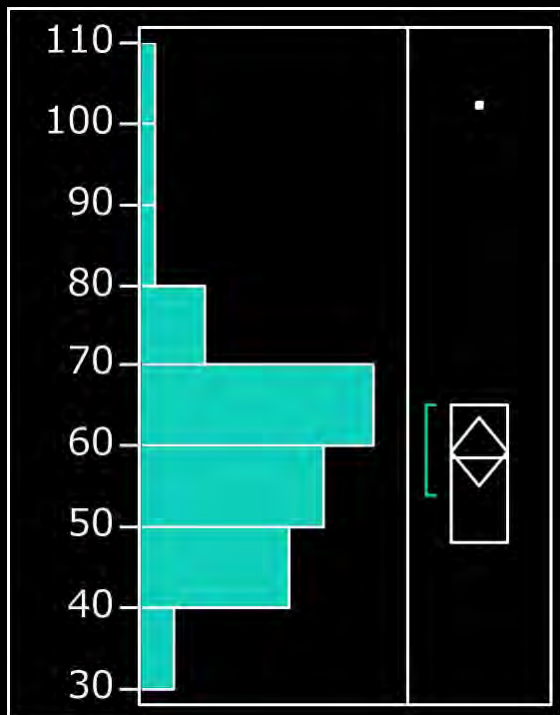
糖尿病



高血圧

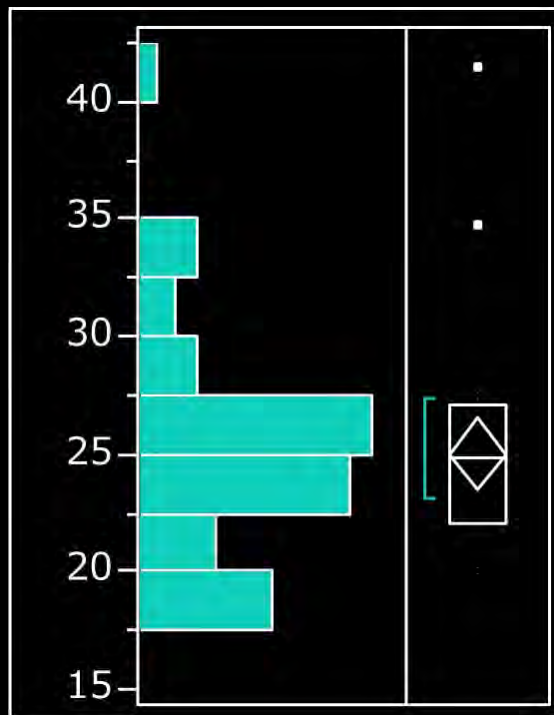


体重



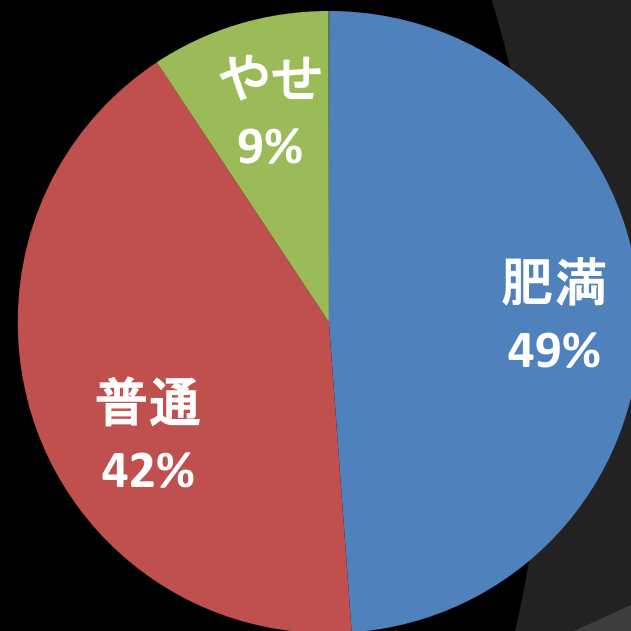
平均 59.4 kg

BMI



平均 25.0

体型



やせ: BMI < 18.5

肥満: BMI ≥ 25

初回治療

内性器全摘術(筋膜外術式) 54例

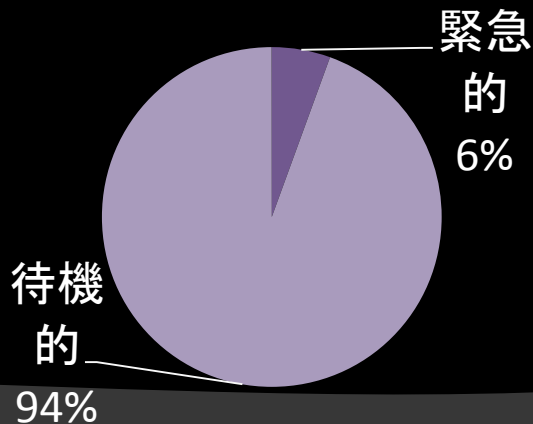
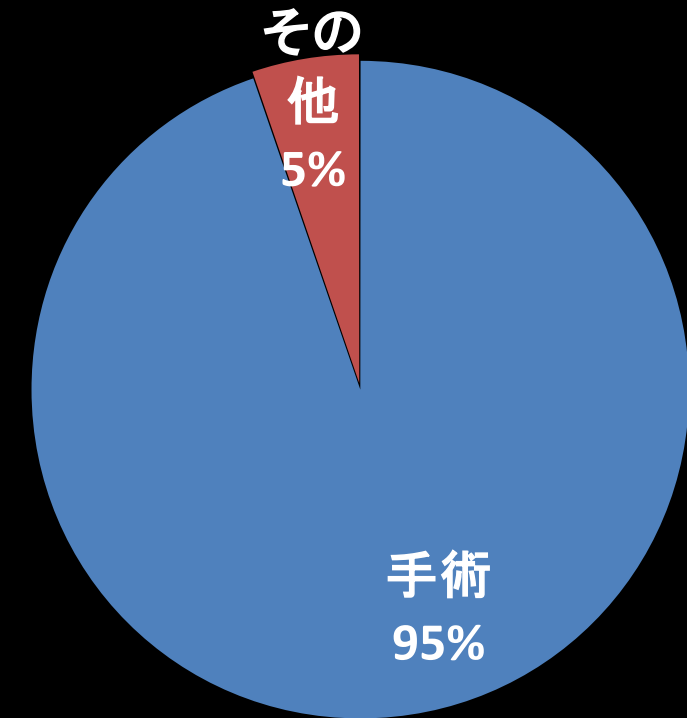
(+骨盤リンパ節生検 2例
+S状結腸部分切除・吻合 1例)

その他 3例

○ 若年体がん(32歳, 未婚):
D&C + 黄体ホルモン療法

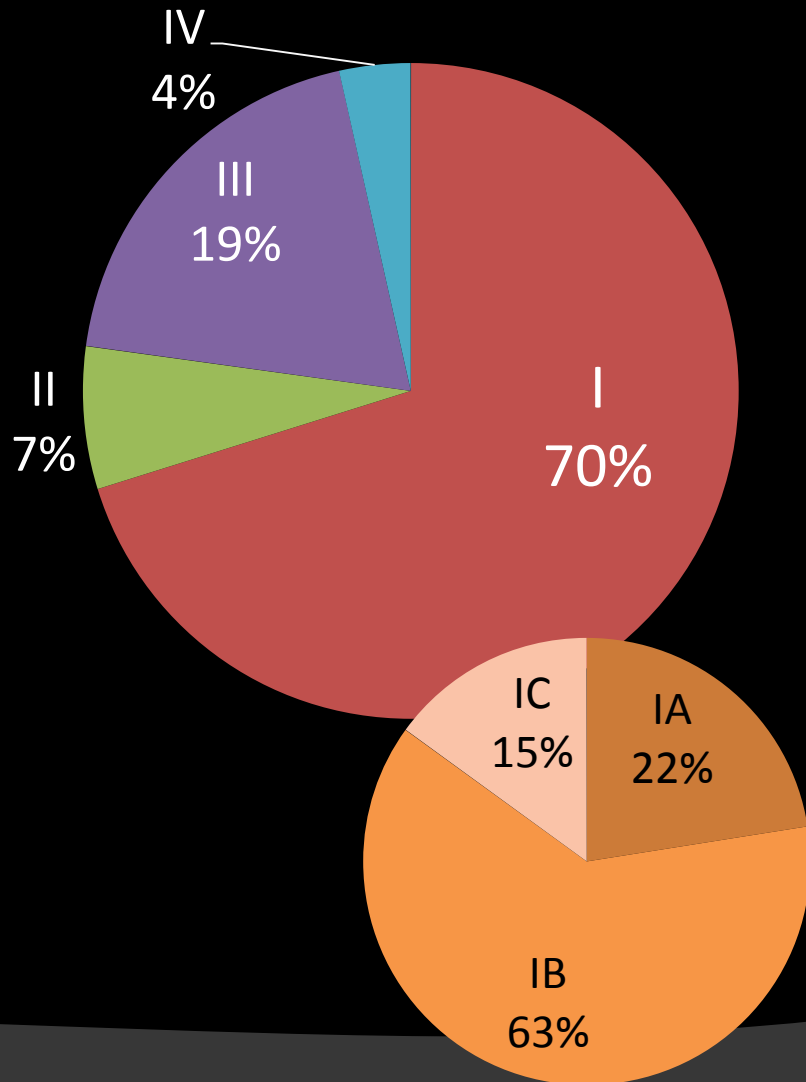
○ IVB期(癌性胸水): NAC

○ IVB期(骨転移):
緩和的放射線治療(骨転移)

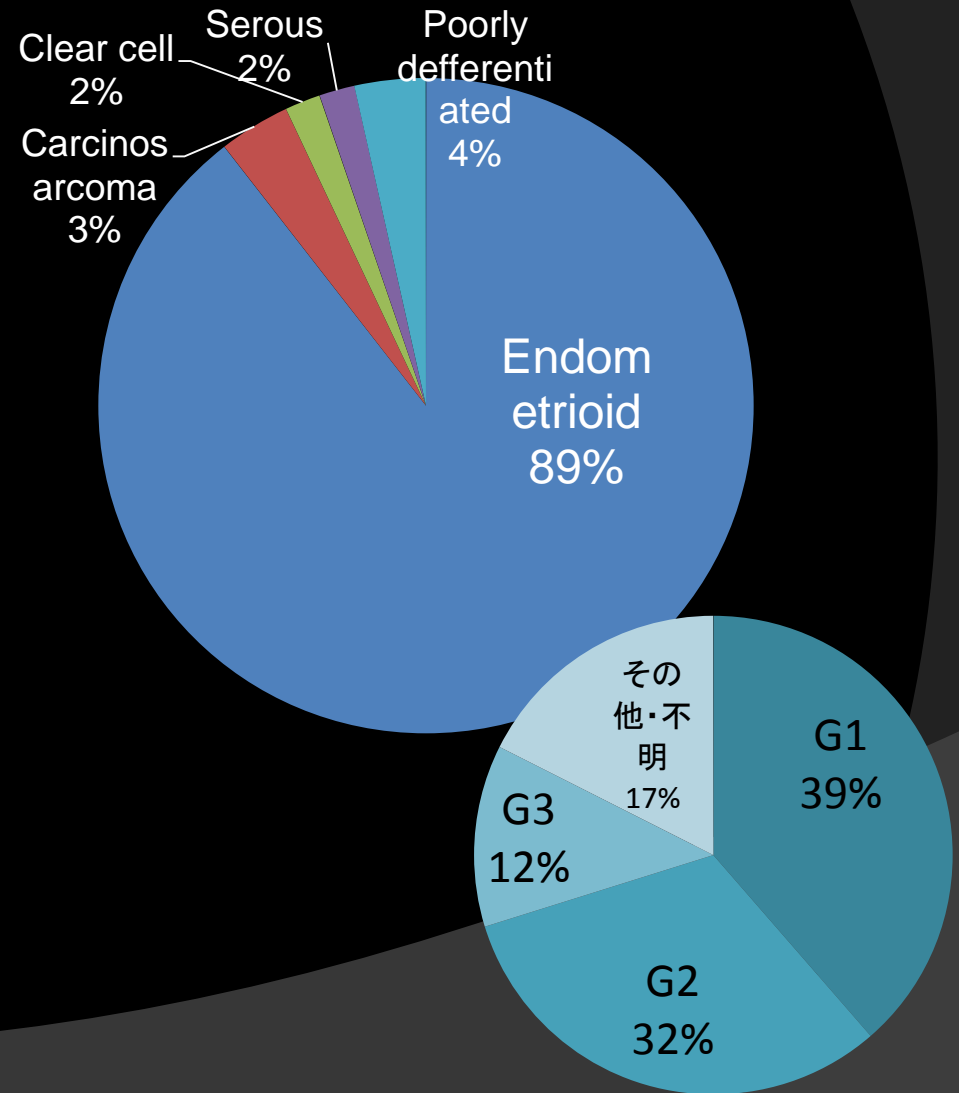


診断

進行期(手術進行期)

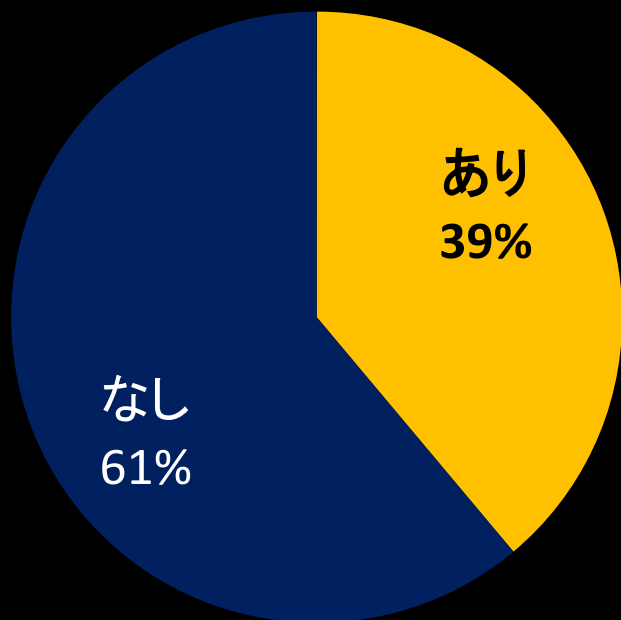


組織型

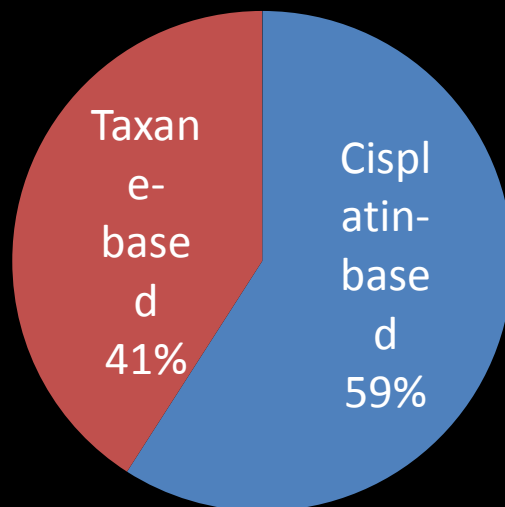


術後補助化学療法

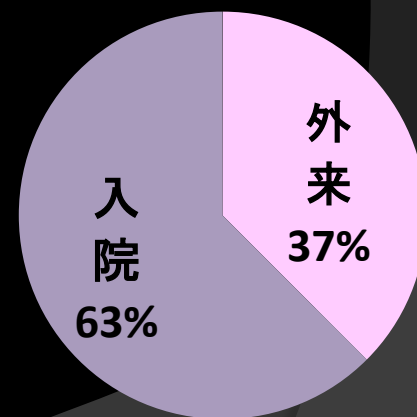
化学療法の実施 (手術施行 54 例中)



レジメン



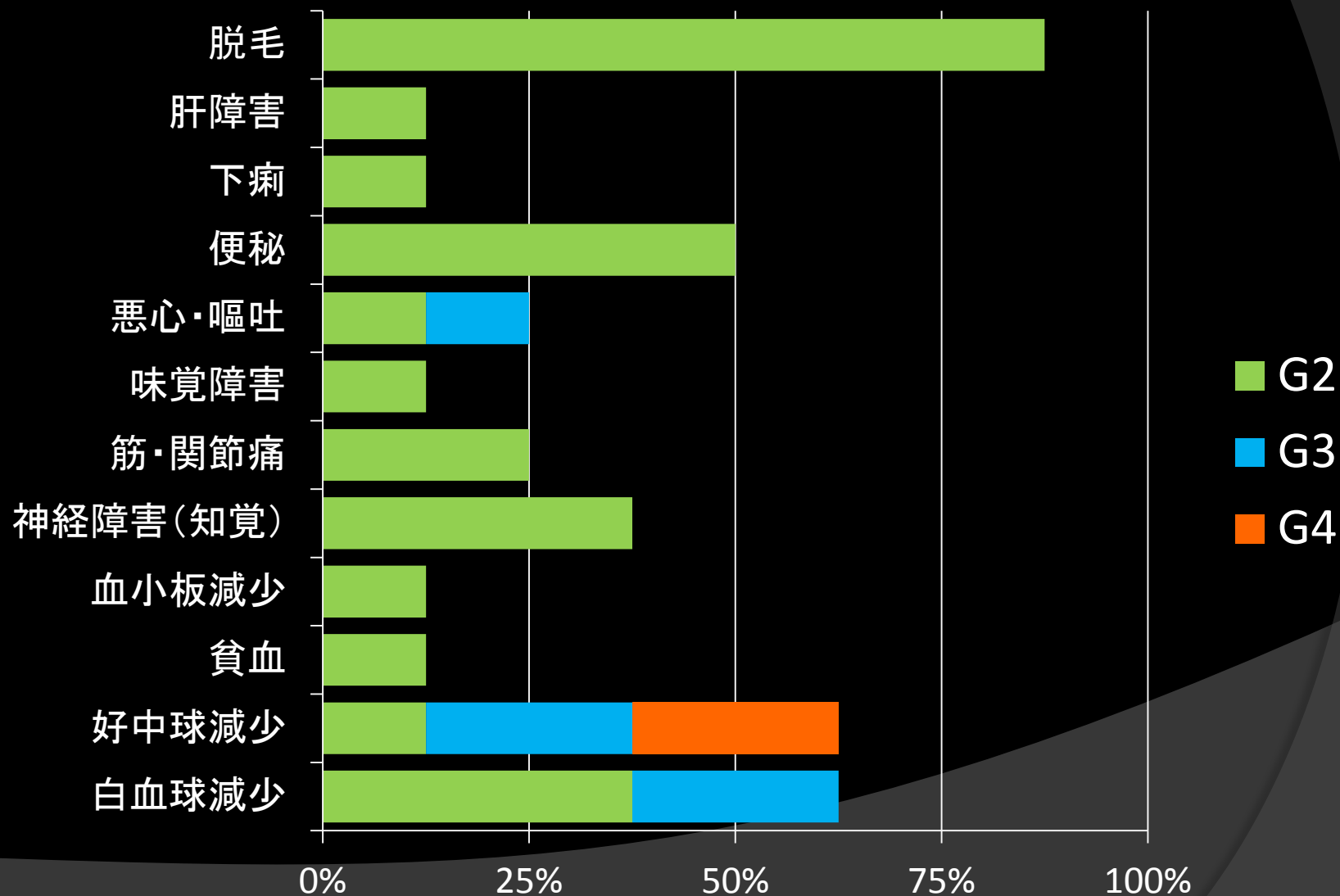
外来化学療法 (TC or DC療法 9 例中)



TC: paclitaxel + carboplatin
DC: docetaxel + carboplatin

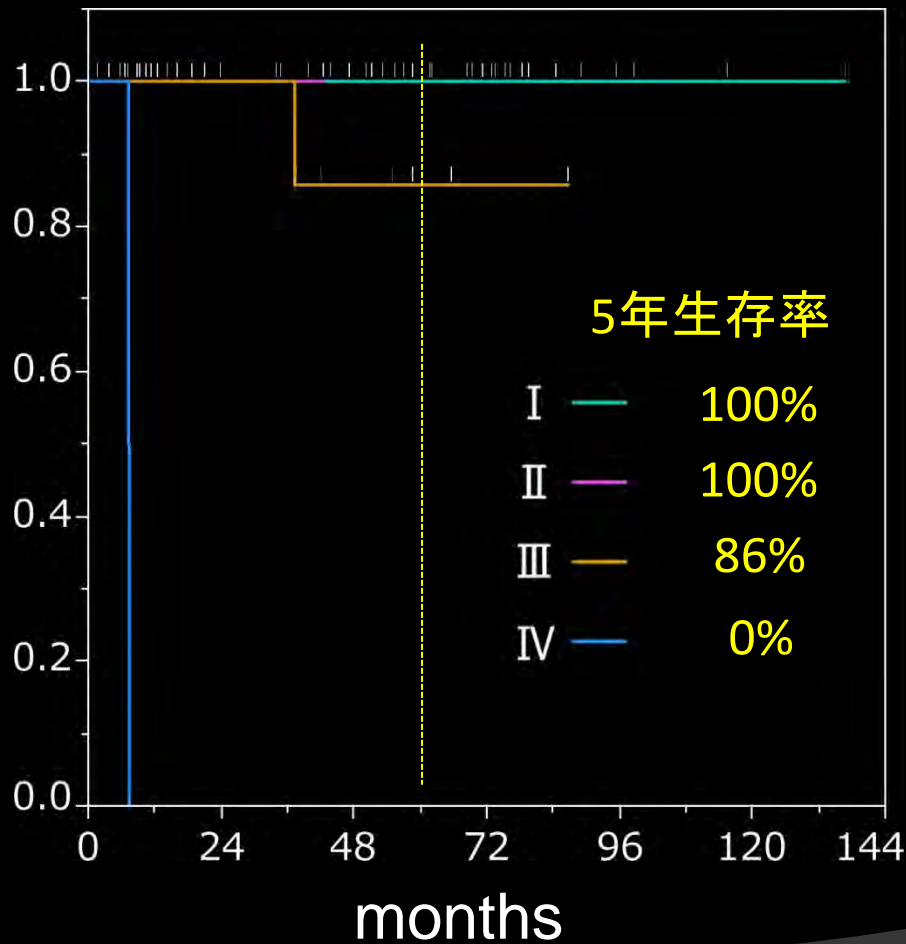
有害事象 (Grade 2 以上)

(TC or DC療法 9例中)

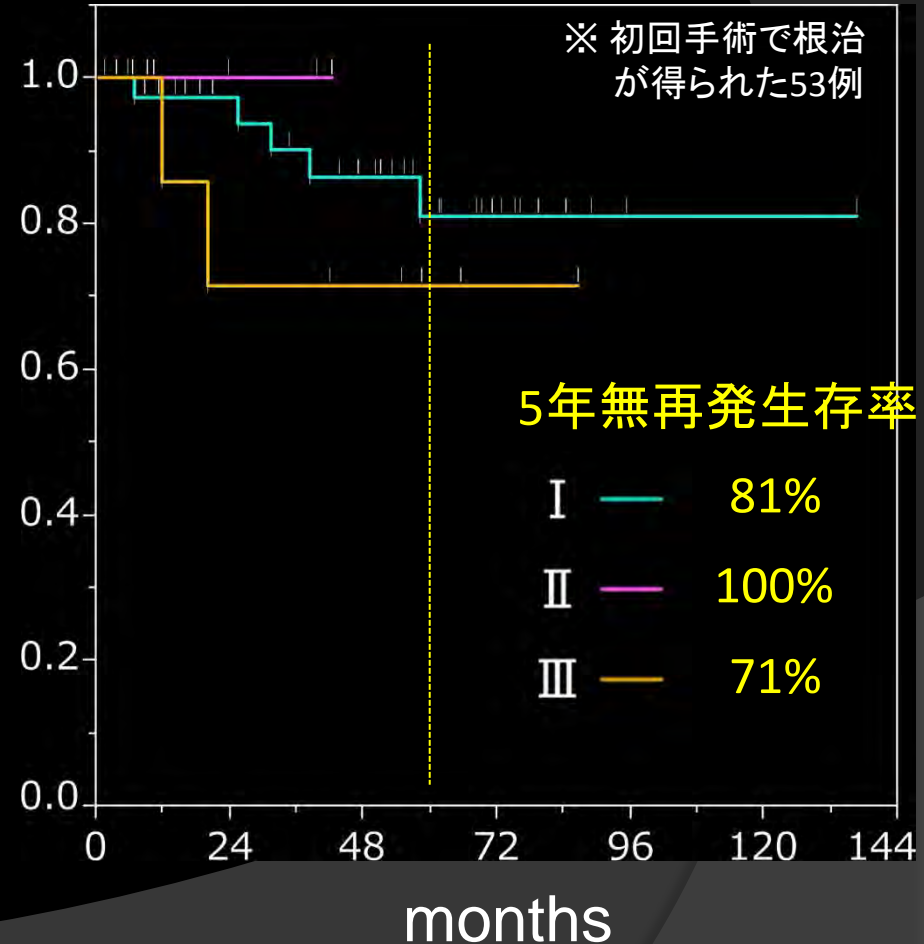


生存曲線による予後分析

全生存期間

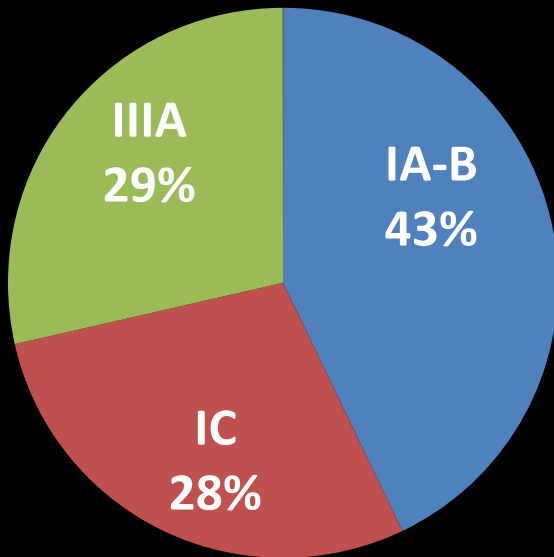


無再発生存期間

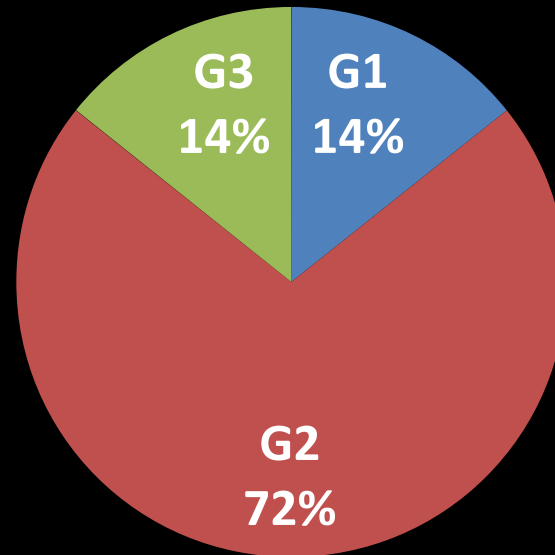


再発 7 例 (13.2%)

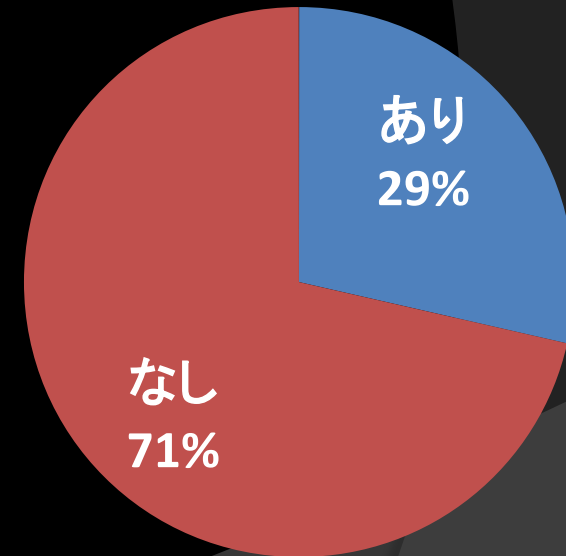
進行期



Grade



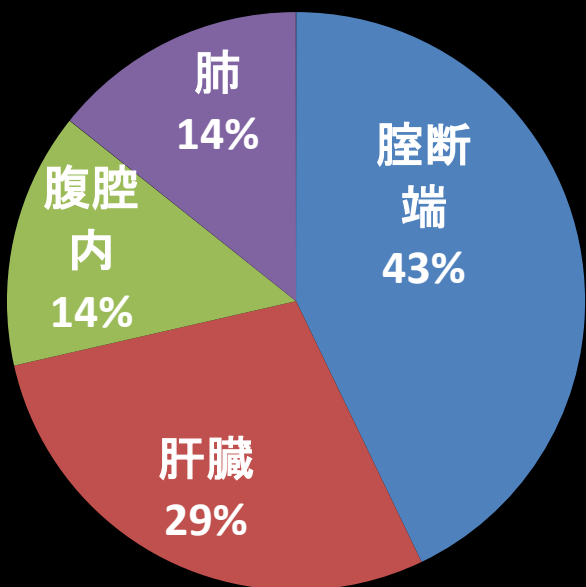
術後補助 化学療法



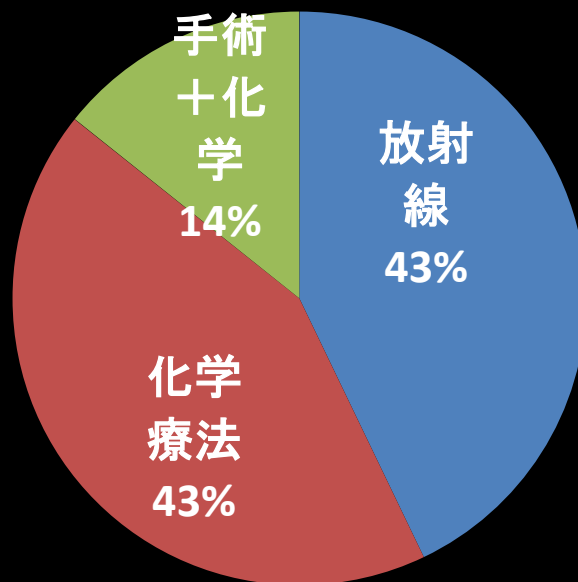
組織型

すべて Endometrioid adenocarcinoma

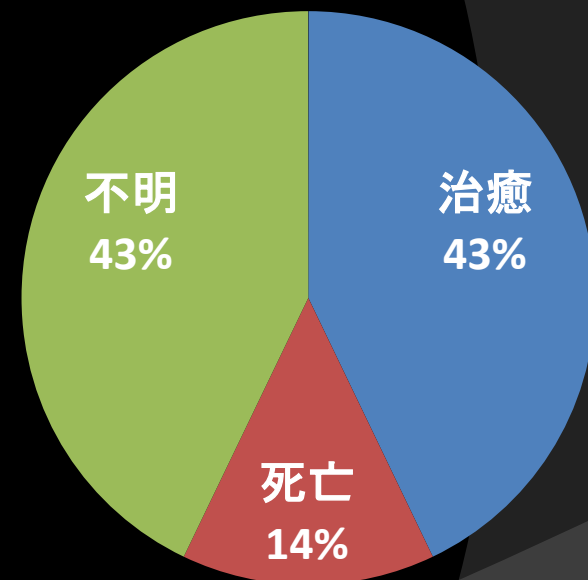
再発部位



再発に対する治療



転帰



再発に関するリスク因子の検証

新進行期分類 I 期 相当 46 例

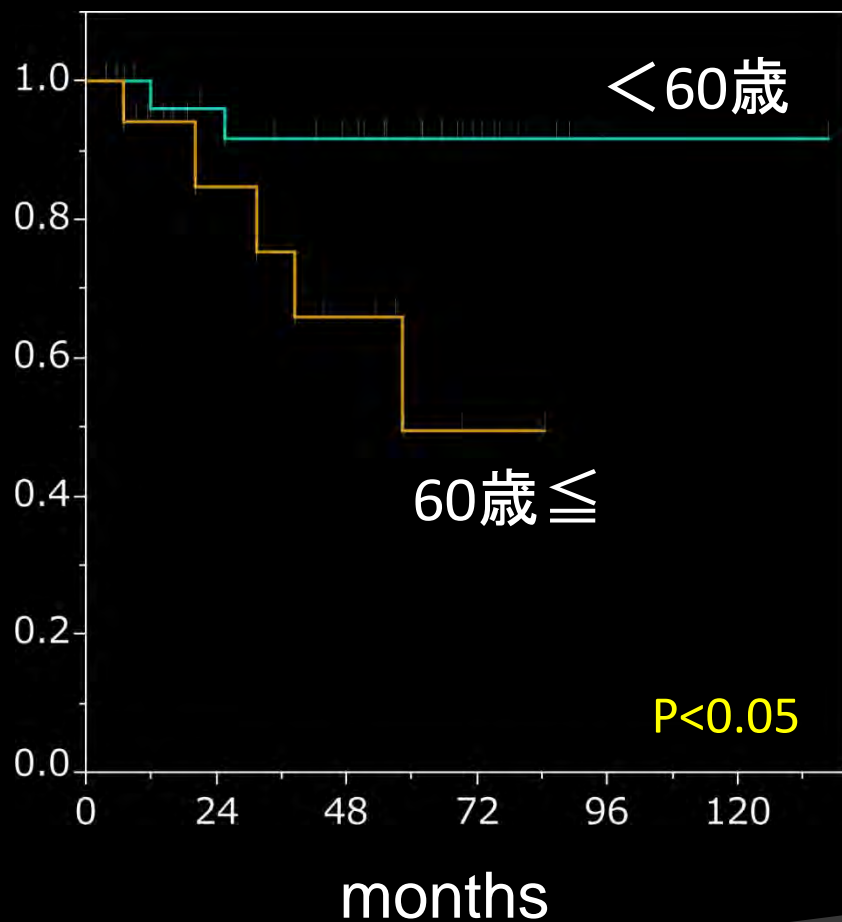
—旧分類 IA-C, IIA, IIIA(腹腔細胞診陽性)—

における 無再発生存期間 の分析

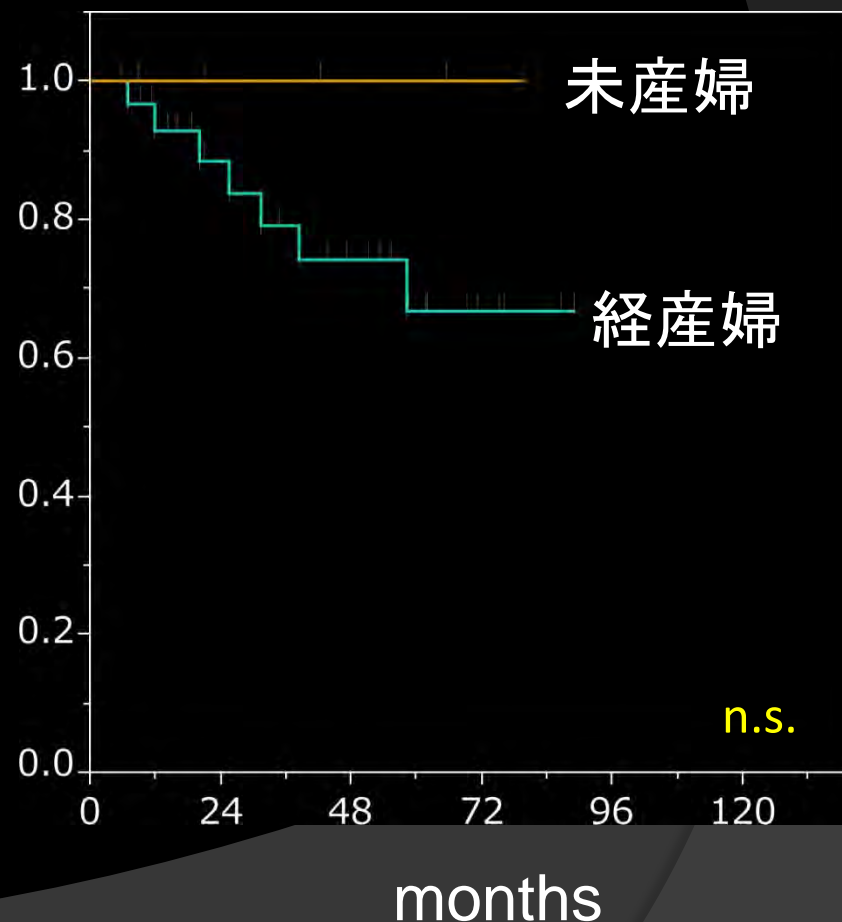
無再発生存期間

—新進行期分類 I 期相当46例—

診断時の年齢



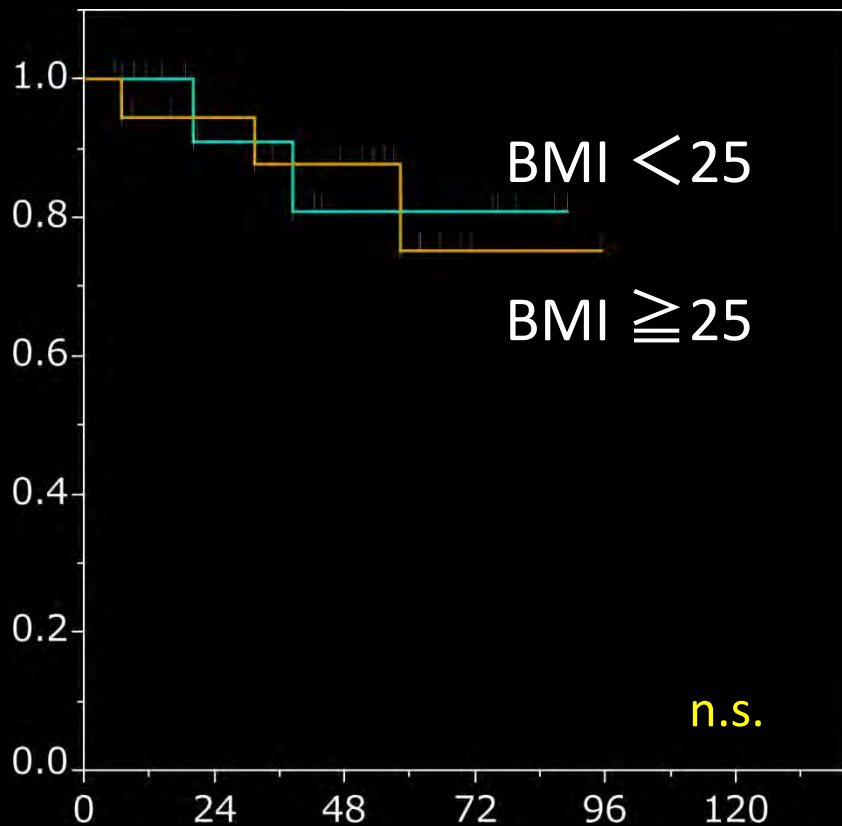
分娩歴



無再発生存期間

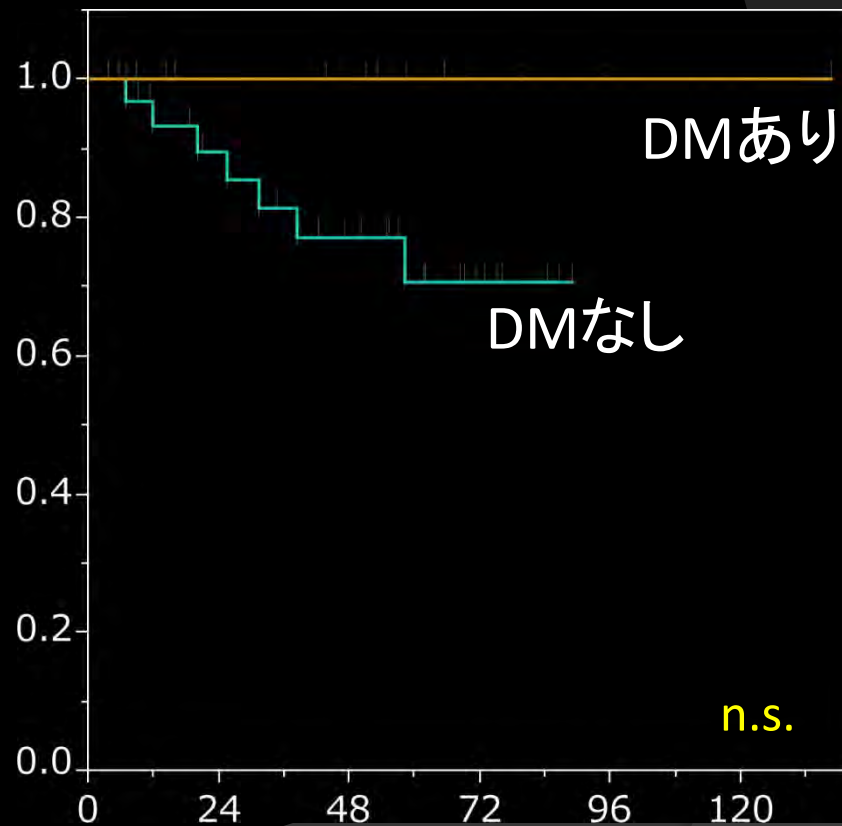
—新進行期分類 I 期 相当46例—

肥満



months

合併症:DM

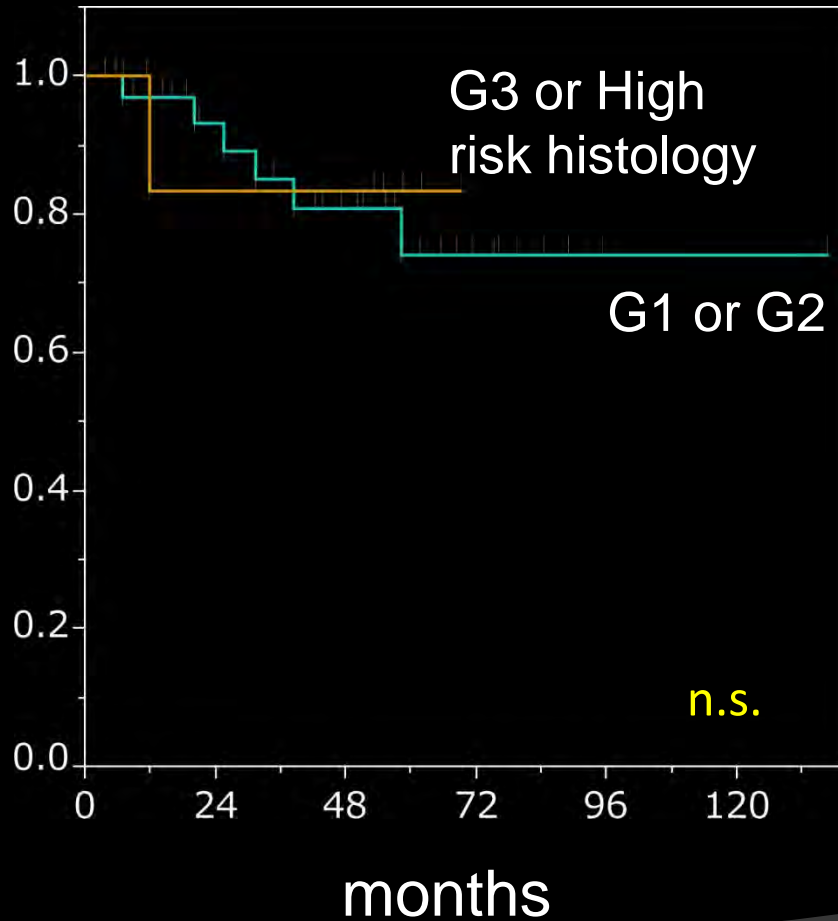


months

無再発生存期間

—新進行期分類 I 期 相当46例—

Grading



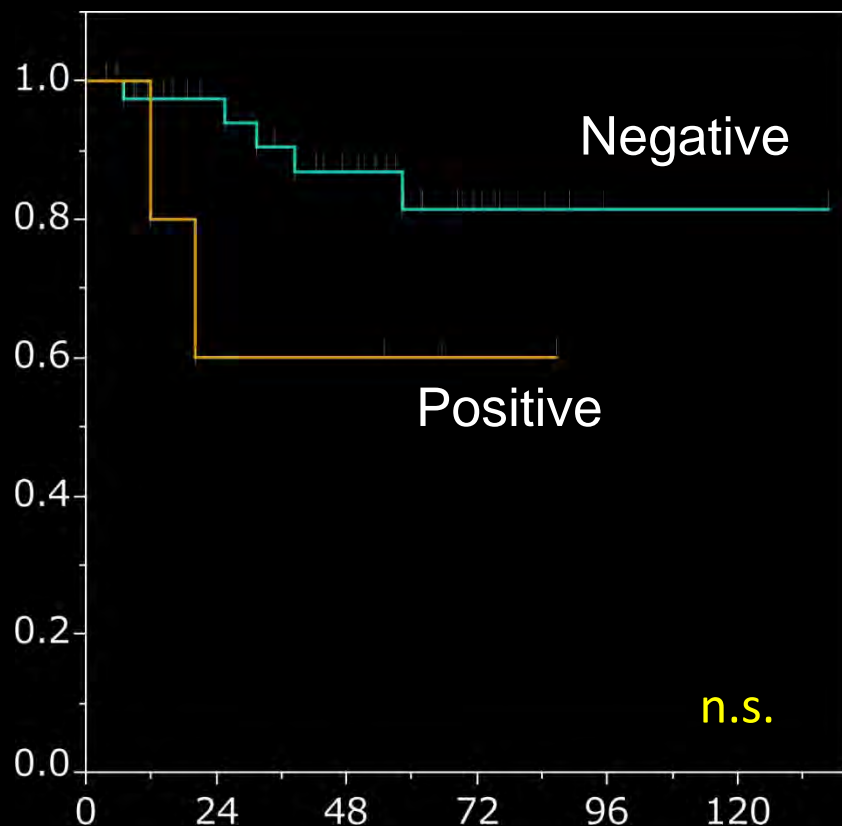
筋層浸潤



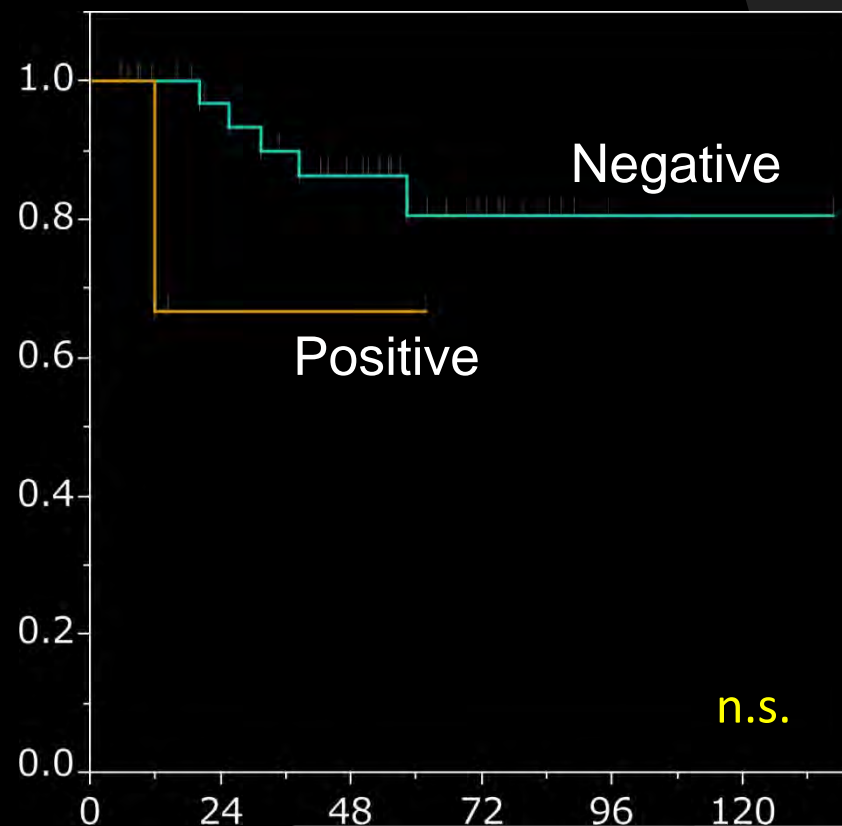
無再発生存期間

—新進行期分類 I 期相当46例—

腹腔細胞診



術前マーカー



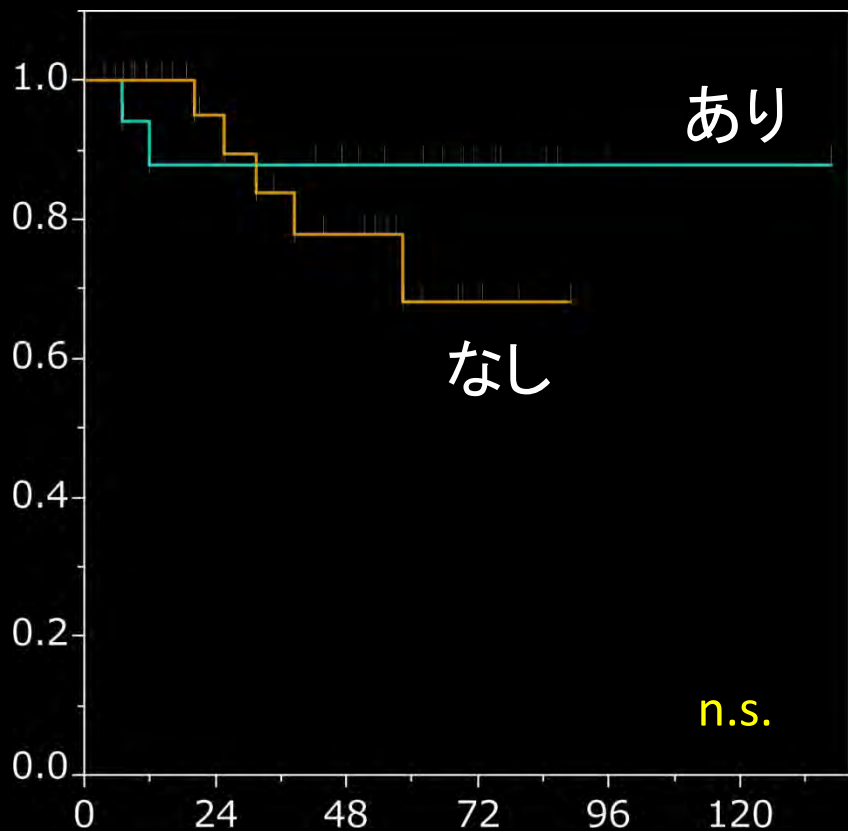
months

months

無再発生存期間

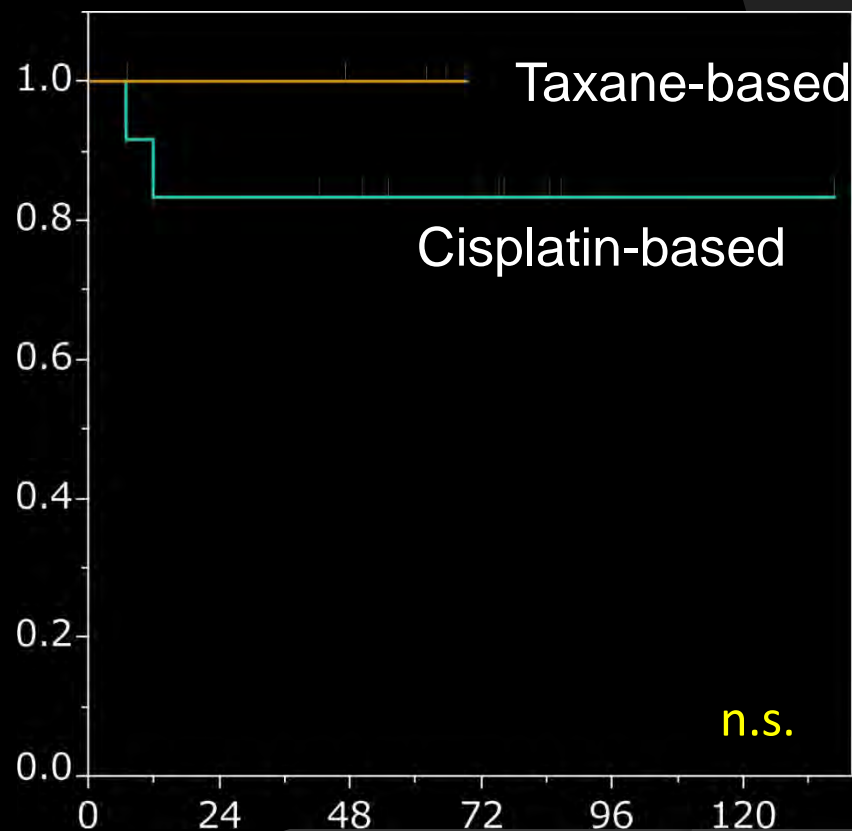
—新進行期分類 I 期相当46例—

術後補助化学療法



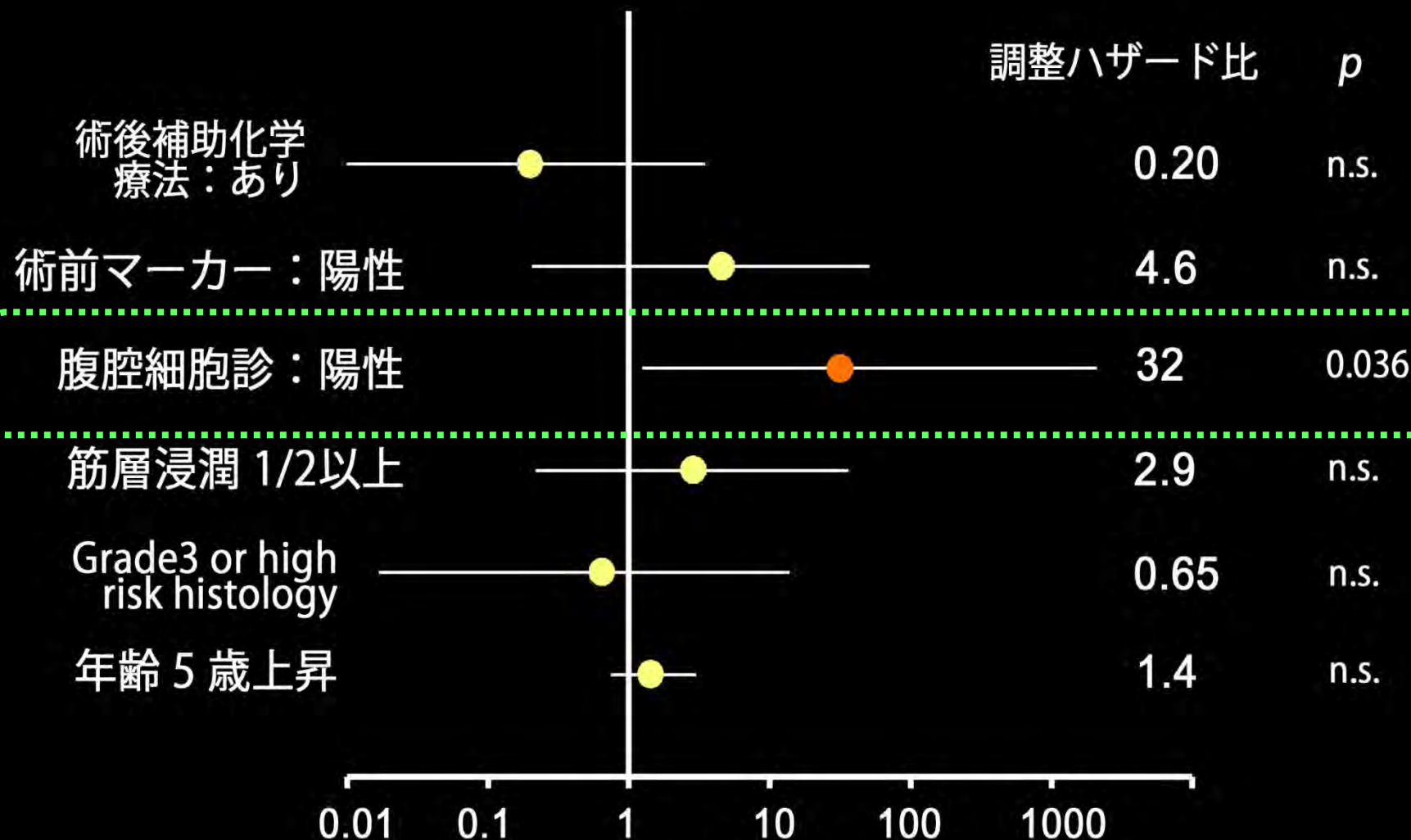
months

レジメン(n=17)



months

Cox hazards model を用いた多変量解析

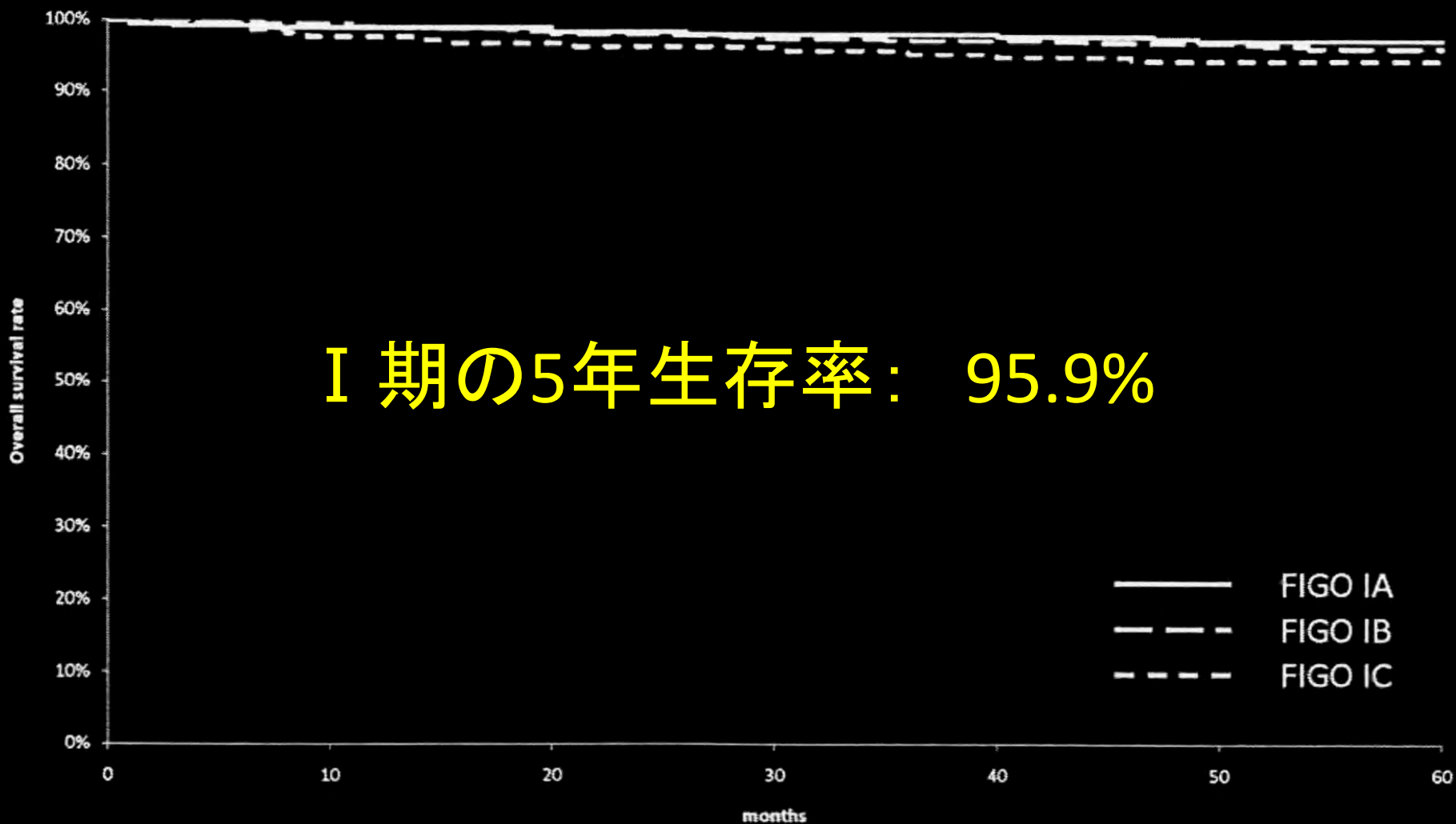


考察

- ◎ 再発率は、Ⅰ期 19%、Ⅲ期 29%であった
- ◎ 腔断端部再発が多く、術式が関連している可能性を否定できなかった
- ◎ 手術や化学療法に起因する合併症は少なかった
- ◎ 高年齢、筋層浸潤1/2以上、腹腔細胞診陽性は再発のリスク因子であった
- ◎ 肥満 49%、DM合併 26%、高血圧合併 26%と多かった

日産婦誌 2011

Figure 3. Kaplan-Meier Estimated Overall Survival Curves of FIGO Stage I Corpus Cancer Patients by Substage, Treatment Started in 2002



まとめ

- 当院における子宮体癌治療の実際とその成績を示した
- 新たな指針やエビデンスを考慮しながら、地域の総合病院としての役割を果たしていきたい